

# その症状、パーキンソン病ではありませんか？

パーキンソン病は治療で症状がよくなる病気です。すぐに“神経内科”を受診しましょう。

## ●パーキンソン病とはどんな病気ですか？

主に脳の黒質にあるドパミン神経細胞が減り、脳内でドパミンが欠乏することにより、発症します。

### ①運動症状

ふるえや手足のこわばりに始まり、動作が鈍くなる、転びやすくなる、などがあります。

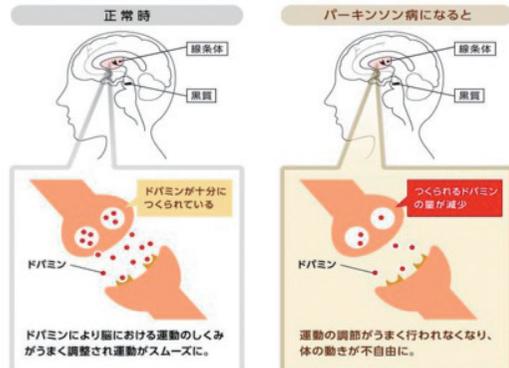
### ②非運動症状

睡眠障害やうつ、立ちくらみ・便秘などの自律神経症状。進行すれば認知症が出現することもあります。

## ●パーキンソン病の四大症状(運動症状)と非運動症状



## ●パーキンソン病では脳内のドパミンが欠乏している



## ●どれぐらいの患者さんがいますか？

全国で約15万人の患者さんがおり、年々増加しています。

## ●パーキンソン病は治る病気ですか？

残念ながら根治療法はまだありません。しかし、症状を改善できる薬剤が次々と開発されています。将来的に病気を“治す”ことを目標にした研究が進んでおり、iPS細胞を使用した研究も始まっています。

## ●どのような治療がありますか？

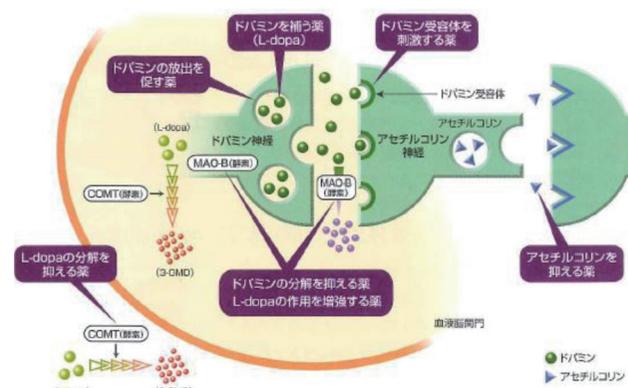
### ①薬物療法

ドパミン補充療法を中心とし、ドパミン受容体を刺激する薬や、ドパミン分解を抑える薬などがあります。非運動症状に関しては、うつ症状には抗うつ薬、睡眠障害には睡眠薬、といった対症療法が中心となります。

### ②外科的治療

薬で症状コントロールが難しくなった進行期には、深部脳刺激療法などの外科治療が可能な場合もあります。

## ●パーキンソン病の薬物療法



他にオピオイド受容体やアデノシン受容体に作用する薬剤も開発されています

## ●どのような公的支援を受けられますか？

- 厚生労働省の特定疾患治療研究事業  
症状が進行した場合(ヤールの重症度分類でⅢ度以上、かつ生活機能障害度2度以上)、医療費自己負担分の一部または全額が公費で助成されます。
- 介護保険  
介護保険は通常、65歳以上の第1号被保険者しかサービスを受けることができません。しかしパーキンソン病では、必要に応じて40歳以上65歳未満の第2号被保険者でもサービスを受けることが可能です。

## ●パーキンソン病の進行とヤールの重症度分類

### I度

体の片側にふるえや筋のこわばりが出ます



### II度

体の両側にふるえや筋のこわばりが出ます



### III度

歩行障害が出現し、後ろに倒れやすくなります



### IV度

日常生活動作が難しくなり、介助も必要になります



### V度

日常生活に全面的な介助が必要になります

